シリーズ・病院

平塚市民病院（平塚市）

藤尾由美

平塚市民病院は東海道線の平塚駅北口からバスで約15分のところにあります。病院からは富士山が見え、病院の横には達上ヶ丘池（たんじょうがおか）や近所の方々のゲートボールスポットになる公園も隣接しており、のどかな雰囲気が漂っています。当院は昭和44年に中南国保病院の改築の際に平塚市に開設された、416床の中核病院です。平成31年は当院開設50周年の年であり、同年３月のグランドオープンに向けてここ数年は新棟建設や旧棟の改築工事が行われています。新棟にはヘリポートが併設され平成29年４月から３次救急病院に認定されました。

皮膚科は、初代部長の木花いづみ先生が26年間の勤続中に皮膚科を４人体制にまで拡充され、このまま安泰かと思いきや、2018年の10月の先生の御退任に伴い、残念ながら現在は３人体制となりました。私は平成25年７月から慶應大学皮膚科の人事にて当院に就職し、平成29年４月から科長に着任致しました。常勤は私と川島裕平先生、鈴木千尋先生の３人ですが、木花先生には週２回の外来と、病理のカンファレンスにいらしていただいています。

昨年から外来の一般診療は午前中に主に２診で行い、午後は基本的に手術や検査を行っています。外来患者さんは１日平均95人程度で、紹介患者さん優先ではありますが予約外の患者さんも受けています。

午前の外来は殺伐となりがちですが、初診にはDC（Doctor's clerk）がついて下さり、汎用や病名を入力して頂けるため患者の話に集中でき、また業務が早く進み大変助かっています。看護師さんは皆さんとても明るく、嘱託で皮膚科専属の方４人のうち、２人が常にいて下さりとても働きやすい環境です。

検査は生検に加えパッチテスト、プリック／スクラッチテスト、MED検査などを行っています。生検においてはDIFまで病理部で施行していただけるため水疱症などの診断にはとても助かっています。

後列左より外来看護師、DCさん
前列左より鈴木医師、筆者、川島医師

治療では、光線の機器が充実しており、NBUVB、セラビウムに加え、昨年ターナブも購入しました。光線の治療は毎日午後に行っています。多汗症に対してはイオントフォレーシスやボトックスを、脱毛症に対してはケナコルト局注や、SADBE、DPCPも導入し、重傷例では入院の上パルス療も行っています。手術は外来での局所麻酔は月曜午後、火曜の午前・午後、金曜の午後の４コマで、木曜午後は入院患者の枠として、局所麻酔と全身麻酔を隔週で行っています。手術件数は年間約500件程度（全麻は20件程度）で、良性・悪性腫瘍の単純切除術を中心に全層／分層植皮や、頸部を除くリンパ節生検を行っています。

入院患者は年間の平均10人／日前後です。入院患者の疾患は帯状疱疹や蜂窩織炎に加え、ここ数年は何故か類天疱瘡を主体に水疱症の患者さんが定期的に入院されております。それも重症や難治な症例

が少なくなく、IVIGや、内科にお願いして血漿交換も行っています。悪性腫瘍に対する化学療法は、症例数は少ないですがオプジーボ投与やパクリタキセル療法なども可能です。

当院での診療疾患はcommon diseaseがもちろん多いですが、多種多様の症例が舞い込んで来ることから、今日はどんな症例が来るかと少しドキドキしながら毎日の診療を楽しく行っています。代変わりしても診療自体のレベルが下がらないよう努力し、周辺開業医や病院との地域連携も大切にしていきたいと存じますので、今後ともどうぞご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

恩賜財団 済生会横浜市南部病院
（横浜市港南区）

松倉節子

病院の特徴

京浜東北線の港南台駅から徒歩３分という好立地にある昭和58年６月に開院の病院です。電車の中から見える緑を背景にした茶色の落ち着いた外観の建物で、救急診療科、歯科口腔外科を含む27科で構成される500床の地域の中核的医療を担う総合病院です。併設施設として、訪問看護ステーション、横浜市の指定管理事業である地域ケアプラザ（地域包括支援センター、居宅介護支援事業、デイケアサービス、地域交流事業）があります。

近隣は大型のマンションや団地、住宅地に囲まれており、港南台駅前には、規模は小さいですが高島屋があり地元の人たちの憩いの場となっています。そしてニトリ、バーズをはじめ大型スーパーも複数あり、人の往来の激しい地域にあたり、当院へも毎日多くの患者さんが来られます。病院の基本方針として、良質な地域医療と救急医療による地域への貢献、他の医療機関との密接な連携と患者さん中心の医療の実践、医療・保健・福祉サービスの総合的な提供、地域医療関係者および職員の相互研鑽が掲げられており、患者さんひとりひとりのニーズを考え、積極的に先端医療を実践し、活発な診療を行う病院となっております。

皮膚科について

近隣には皮膚科専門クリニックが多く、当科は完全紹介制です。すべての皮膚疾患に対応していますが、疾患別の構成の中で多いものとしては、帯状疱疹や蜂窩織炎などの皮膚感染症、良性・悪性皮膚腫瘍、乾癬、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、薬疹、膠原病、自己免疫性水疱症などがあります。皮膚科病床は６床ですが、2017年度は常時８～10人程度の患者さんが入院されておりました。入院は帯状疱疹、蜂窩織炎などの急性皮膚感染症、皮膚腫瘍手術（良性・悪性）、薬疹（重症薬疹を含む）、自己免疫性水疱症などが多いです。それ以外にも様々な皮膚疾患が紹介されてきますので、若い医師にとっては一般的な皮膚疾患から稀なものまで、多彩で豊富な臨床経験を積むことができる施設です。午前診療は初診と再診外来を行い、並行して光線外来（NBUVB）を行っています。午後は特殊外来として、すべての平日午後に生検を含めた多くの外来手術を行っており、パッチテストやプリックテストを週に１日ずつ行っています。手術室手術は木曜午後、３～４件を毎週行っ

筆者（後列中央）と皮膚科外来スタッフ

ています。土曜日は第１・第３午前に新患のみの外来診療を行っております。

生物学的製剤の使用認証施設であり、重症の尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬に対しては生物学的製剤を使用しており、また昨年発売された難治の慢性蕁麻疹に保険適用のあるオマリズマブの投与もしております。重症のアトピー性皮膚炎にデュピルマブが間もなく保険適用になりますので、こちらについても今後通院中の患者さんやこれから来院される難治のアトピー性皮膚炎の患者さんには朗報となるかと期待しております。

今後、当科として力を入れていきたいのは、これまでの診断治療の困難な患者さんを幅広く受け入れてきた南部病院皮膚科の伝統を守りながら、アレルギー性皮膚疾患領域での診療の質を高めていくということです。少しずつの歩みではありますが、パッチテストや皮膚プリックテスト、入院の必要な負荷試験についても体制の整備を進めています。食物アレルギーについては、成人の食物アレルギーの受け皿が少ないことから、積極的に精査の受け入れを行っています。また、近隣に高齢者の方が多いことから、難治の全身性皮膚炎の患者さんを数多くご紹介いただいております。これらについても、薬剤性アレルギーを含めたアレルゲン検索、内科的疾患の検索などを含め、原因の究明に力を入れております。

皮膚科スタッフについて

現在３名の医師が勤務しており、昨年４月から私こと松倉が、主任部長として、横浜市立大学医学部皮膚科学教室よりの派遣で赴任いたしました。また、中尾恵美医師、三村慶子医師が、私と同時に赴任しました。お二人ともに乳児のお子さんがいらっしゃり、しかも３人同時の医師スタッフ総入れ替えで、てんやわんやのあっという間の１年でした。皮膚科外来を熟知している優秀な看護スタッフや受付さん、皮膚科のある５東病棟のスタッフの皆さん、そして何よりも、乳児のママとは思えない若い２人の女医さんのパワフルな働きに励まされて、何とか１年を過ごすことができ、周りの皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

４月からは、医師４名のスタッフ体制となります。総合病院ならではの質の高い皮膚科診療を提供できるよう、日々ますます精進してまいります。近隣のクリニックの先生方や病院の先生方と連携しながら、地域の方々のお役にたてますよう努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

厚木市立病院（厚木市）

唐川　大

厚木市立病院は本厚木駅にほど近い厚木市水引にあり、地域の中核病院として27の診療科を擁する地域医療支援病院です。市民の皆様に信頼される医療の提供をモットーとしており、以下の３つを経営目標に掲げています。１．生命と健康を守るため、安全で良質な医療を提供します。２．真心のこもった医療を提供します。全職員が誇りと責任をもって、患者中心の真心のこもった医療の実践に努めます。３．健全な病院経営を推進します。経済性を考慮した健全で効率的な病院経営に努めます。

当院は長期間の改修工事を終え、2017年12月９日

診察室にて

にリニューアルオープンしたばかりで、清潔で明るく、開放的な雰囲気を持つ外来棟と、ICU／CCU、ハイブリッド手術室などをはじめとした充実した設備を有する入院棟、そして、180台対応可能な駐車場を完備しております。

当科の診療は常勤医である私と、２名の非常勤医、毎日１～２名の看護師で行っています。私が毎日の外来を担当しているほかに、非常勤医は火曜日（６月より月曜日に変更予定)、木曜日の午前中の外来を担当しており、この２日は２診体制となっております。

当科の午前中の受付時間は８：30～10：30となっており、皮膚科全般にわたり広く診療を行っております。

午後は専門外来及び外来手術、検査となっており、14：00～16：00に予約の患者さんを対象に行っております。月曜日、水曜日は外来手術、皮膚生検を行っています。火曜日の午後は乾癬の専門外来です。木曜日、金曜日の午後は予約患者及び病棟他科依頼の対応を行っています。

当科の診療の特徴は以下の通りです。

総合病院の皮膚科として、他科とも積極的に連携を行いつつ、皮膚科全般にわたって全人的な診療を行っています。

皮膚生検には特に力を入れており、必要な症例では迅速かつ積極的に皮膚生検を行い、正確な診断に努めております。

外来手術に関しては局所麻酔で可能な範囲に限られますが、良性腫瘍、悪性腫瘍ともに対応しております。また、超音波検査も可能で、診断、術式決定の一助として行っております。レーザー治療や皮弁形成術については形成外科と連携して対応しています。

乾癬については火曜日の午後に専門外来を行っています。当院は日本皮膚科学会の生物学的製剤使用承認施設であり、アダリムマブ、インフリキシマブ、ウステキヌマブ、セクキヌマブ、イキセキズマブ、ブロダルマブの６種類の生物学的製剤が使用可能で、重症の尋常性乾癬、乾癬性関節炎の患者さんを中心に積極的に生物学的製剤による治療を行っております。内服療法としては、シクロスポリン、エトレチナートに加え、アプレミラスト、保険適用外ですがメトトレキサートを、中等度～重症の患者さんを中心に使用しております。外用療法としてはビタミンD3、ステロイドのほか、これらの配合剤やタクロリムス軟膏、ステロイドシャンプーなど各種取り揃えております。紫外線療法としてはエキシマによる局所型紫外線療法が可能であり、他の全身療法、局所療法と併せて行っています。また、乾癬性関節炎については、造影MRI、関節超音波を用いた画像診断が可能です。

アトピー性皮膚炎については、ステロイド外用、タクロリムス外用を基本としつつ、難治部位に対する局所紫外線療法や、シクロスポリンを用いた全身療法を取り入れて治療しています。

接触皮膚炎、金属アレルギーに対してはパッチテストを行っています。

まだ常勤医１名の比較的小規模な病院皮膚科ですが、日常遭遇するあらゆる皮膚疾患に対し質の高い医療を提供すべく頑張ってまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

厚木市立病院　皮膚科

〒243-8588　神奈川県厚木市水引１-16-36

TEL：046-221-1570（代表）

FAX：046-222-7836

アクセス

１．小田急線本厚木駅下車、北口から徒歩約15分。

２．小田急線本厚木駅下車、北口から神奈川中央交通１番乗場からバス乗車。「市立病院前」下車、徒歩２分。

３．東名高速道路、厚木インターチェンジから約10分。

北里大学病院（相模原市）

三井純雪

今回、北里大学病院皮膚科をご案内させていただく三井です。よろしくお願いいたします。北里大学病院は人口72万人の相模原市の南側に位置し、中核病院として近隣の厚木市、座間市、大和市、海老名市、綾瀬市、愛川町、東京都町田市（43万人）など、人口計200万人以上の地域をカバーしています。開院は1971年、当時の写真をみるとそれこそ何もない野原に忽然と生じた病院で、ここに東京大学皮膚科学教室より西山茂夫先生が教授として就任され、北里大学皮膚科を作り上げました。続いて当大学の卒業生である勝岡憲生先生が教授として就任。北里大学皮膚科をより強固に成長させ、2014年より、同じく卒業生である天羽康之先生が教授として就任しました。今までの伝統を引き継ぎつつ新しい皮膚科教室を作り出そうと、新教授筆頭にスタッフ一同頑張っております。同年には新病院が開設し、古い病院はあとかたもなく消え去り、10年前とは建物も随分変わりました。久しぶりに訪れた方はきっと余りの変わりように驚かれることでしょう。

病院前の県道を相模大野からたどってくると、周囲の大した建物のないところに巨大な病院がケヤキの並木の向こう側に見えてくるので、初めて来られる方もびっくりされるかもしれません。昨年にはキムタク主演のテレビドラマの舞台にもなり、ご覧になった方も多いと思います（設定は湾岸のかっちょいい病院で外面は某有名病院でしたが、実際は相模の原野に建った病院です！）。若い女医がキムタクとすれ違ったと喜んでいました。2017年には新病院の裏側にIPE棟という研修医の研修センターのような建物もできて、ますます充実してきました。一方で敷地内の育った木を容赦なく切ってしまい、新設医大ですがせっかく積み上げてきた歴史を消すみたいでもっと大事にしてほしいとも感じています。

当院は特定機能病院としての中核病院の役割のみでなく、相模原市には市民病院が無いため、市民病院の役割も担っており、一般的な疾患から希少なものまで多彩な症例を診療しています。平成28年度は皮膚科外来患者数51,225人（1日平均患者190人）。初診医3～4人、再診医3～4人で診療し、専門外来は毛髪、膠原病、脈管、乾癬、皮膚腫瘍、皮膚外科、水疱症を行っています。入院患者数は、1日平均約25人、年間手術件数約400例です。

病院の渡り廊下で

今病院にいるスタッフは医師15人、検査技師1人、外来看護師4人がおります。病棟医はチーフ筆頭に5人でこれにローテートする研修医が加わります。入院患者は帯状疱疹、蜂窩織炎などの一般的疾患に加え、薬疹、炎症性皮膚疾患、皮膚腫瘍など多岐にわたります。重症な患者も多いですが、自分の科で対応が難しいときは他科と協力し、よってたかって何とかするよう努力しています。新病院の病棟には広い軟膏処置室やシャワー室ができ、TENなどの全身シャワー浴が必要な場合、研修医から病棟医長まで総出で患者さんを洗ってあっという間に全身巻きをほどこしていきます。チームな瞬間です。そうやってうまく患者さんが退院できると非常にうれしく達成感があります。

外来は現在のところ主治医制で、初診で見た患者を責任もってフォローします。後期研修医も教授も変わりなく、湿疹から腫瘍、膠原病まで幅広く経験することができます。皮膚科に入局したばかりの研修医は最初は戸惑うことも多いですが、すぐに成長し、いっぱしの皮膚科医として働いています。あとは発表する症例に困ることはないので学会発表、論文作成を進めていき順調に専門医試験に受かっていきます。

病院案内なので研究は省きますが、このような日常のなかで忙しく診療しております。地域の人の健康に寄与できるよう、邁進していく所存ですので、これからもよろしくお願い申し上げます。